

# 就業体験で実感した働く環境の大切さ

大学・家政学部・2年

期間：令和7年8月7日、29日（2日間）

今回就業体験に参加した目的は、建築業界の実際の職場環境を知り、大学での学びを社会でどう生かせるのかを理解することであった。体験を通して、建築業界の仕事だけでなく、働き方やキャリア形成について多くの気づきを得ることができた。

まず印象に残ったのは、資格取得や学びに対する会社の支援制度である。入社後は資格補助として最大38万円の学校費用支給や、試験会場までの交通補助が用意されており、責任の比較的少ない1年目に資格を取る社員が多いという話を伺った。資格の有無によって年収が変わることも知り、早い段階で自己投資することの大切さを学んだ。今の自分に置き換えても、学生のうちから基礎を固め、取れる資格を積極的に取得していく姿勢が重要だと感じた。

また、働きやすい職場環境についても強く印象に残った。建築業界は女性の福利厚生が十分ではないと聞いたことがあったが、(就業体験先)では産休・育休が男女ともに取りやすく、復帰後も温かい雰囲気迎え入れる職場だと知った。社員同士の人間関係も良く、安心して長く働ける環境であることが伝わってきた。こうした環境であれば、結婚や子育てを経ても戻りたいと思えるだろうと感じ、企業文化の重要性を学んだ。

さらに、メンター制度や自己分析の取り組みにも関心を持った。(就業体験先)では2か月に1回、知らない先輩社員との面談があり、自分の強みを発見するきっかけになるという。そこで紹介された「ストレングスファインダー」という書籍を私自身も読んでみたいと思った。また、配属は必ずしも希望通りではないが、想定外の部署でも新しい面白さを発見できるという社員の声を聞き、柔軟な姿勢の大切さを学んだ。

工務店の事業についても新しい発見があった。(就業体験先)は木材を多用した温かみのある建築を特徴としており、断熱材を製造する工場や木材をプレカットする工場を自社で持っている。特にプレカット工場を自社で持つ工務店は珍しく、手作りの良さを生かした多様な住宅づくりが可能になっていると知り、企業としての強みを実感した。

インターンに参加する前は、建築業界に対して「厳しく忙しい環境」というイメージを持っていた。しかし今回、社員の方々から直接話を伺い、現場を見学する中で、人を大切にしながら長く働ける企業があることを知った。社会や企業に対する見方が大きく変わり、将来の進路を考える上で大きな収穫となった。

今回の体験を踏まえ、私はまず自分の得意分野を見つけることを課題としたい。そのために授業一つひとつをこれまで以上に集中して受け、今からでも取得できる資格には積極的に挑戦していく。将来的には、(就業体験先)の社員の方々のように自分の強みを発揮し、周囲と協力しながら働ける社会人になりたいと考えている。

# 就業体験で得た知識と実践力

大学・芸術工学部・3年

期間：令和7年8月25日～29日（5日間）

今回のインターンシップでは、大きく分けて2つの内容に取り組んだ。

1つ目は設計が完成し、施工の段階に入った建物の実際の現場の見学だ。基礎、骨組み、内装、引渡し前など様々な段階の現場に伺い、大学の授業では講義として知識しかもっていなかった材料や技術を実際に見ることができた。今までの授業では教科書などの資料でイラストや工程、部品そのものの写真を見て覚えることしかしていなかったが、今回の見学で、覚えた部品たちが実際に職人の方に使われているところや工程を実際に見て経験することができ、とても印象に残った。また、内装段階では今まであまり授業では学んでこなかったシーリングの職人の方や左官職人の方にお会いし、技術を見学し、体験もさせていただいたため、今まで自分のあまり知らなかった工程や技術についても深く学ぶことができた。それだけでなく、今回のこの見学を通して、1つの住宅を建てるのにたくさんの方が携わっているということを改めて実感した。

2つ目は、実際に(実習先の)工務店が持っている土地を利用した住宅設計課題である。今回敷地に選ばれた土地は、日当たりや道路などの条件が悪く、形も特徴的だったためなかなか苦戦した。また、課題をする時間が5日間と短く、今までの設計課題にはないようなスピード感を感じながら取り組んだ。学校の設計課題に取り組むときは自分がどのような建物を建てたいのかを重視して行っていたが、今回のインターンシップではお客様の細かい特徴や要望まで設定していただいていたので、お客様側の立場から設計に取り組むことができた。また、実際に設計のプロとして働かれている社員の方々にアドバイスをいただいたり、困ったときに質問をすると、優しく答えてくださったり、自分にはなかったプロとしての視点から様々なことを教えていただき、新たな考え方を得ることができた。そのほかにも、自分の使ったことのないアプリの使い方を丁寧に教えていただいた。社員の方が実際にお客様にお見せする3Dを自分も実際に作り、それを使って社員の方の前でプレゼンもさせていただき、緊張もしたが、とても貴重な経験だった。この経験から、実際に仕事として行う実践力を身につけることができたと感じた。

これらの体験以外にも、移動中や休憩中に社員の方々とお話しする機会がたくさんあり、工務店とハウスメーカーの違いや、(実習先の)工務店でどのような仕事に携わってきたか、住宅設計以外にどのような活動をしているかについて知ることができた。

また、本社の隣にはコワーキングスペースやレンタルスペースがあり、昼休憩の際に実際にフリーマーケットや料理教室などを地域の方がされているのを見て、こういった地域とのかかわり方もあるのか、と自分は将来地域に密着し、貢献できるような仕事に就きたいと考えているので、このような方法をとても新鮮に感じたし、とても良いなと思った。

今回のインターンシップを通して自分が住宅設計の仕事をするイメージを少しだが持つことができた。今後の設計課題やそのほかの構法などの授業も、今回学んだことを活かして積極的に取り組みたいと思う。

# 安居楽業

大学・工学部・3年

期間：令和7年9月24日～30日（5日間）

私は建設会社のインターンシップに参加し、5日間にわたって土木・建築分野の業務や最新の木質構造技術について学んだ。

1日目は会社概要の説明や土木分野の現場見学を行った。（実習先）は地域密着型の総合建設会社であり、公共事業や民間工事を幅広く手がけていること、さらに地域行事にも積極的に参加していることを知り、企業理念である「地域と共に未来を築く」という言葉の意味を強く感じた。また、ある現場では親子で現場を任されており、「息子と一緒に現場を任せてもらえて毎日楽しい」と話されていた姿が印象的で、親子で地元へ貢献できることの素晴らしさを実感した。

2日目は河道掘削工事の現場を見学した。測量機器を使った高精度な施工管理を体験し、現場技術者の方々が日々行っている仕事の正確さと責任の重さを知った。現場には高校卒業後に入社した社員や、大学卒業後に知識が少ない状態で入社した社員など、さまざまな経歴の方がいたが、入社後の技術研修会や勉強会を通してスキルアップできる環境が整っていた。資格取得の支援制度も充実しており、社員の成長を会社全体で支える体制が印象に残った。

3日目は建築分野の現場を訪れ、地元の文化福祉会館跡地における施工工程を見学した。若手社員の活躍が多く見られ、現場監督が工程を調整しながら全体を管理する姿にプロ意識を感じた。近隣住民への配慮や挨拶など、人との関わりを大切にしている点にも感銘を受けた。また、複数の作業が同時に進む中で、協力会社との連携やチームワークの重要性を強く感じた。

4日目と5日目は岡山県の銘建工業を訪問し、CLT（直交集成板）について学んだ。木材を層状に組み合わせて強度を高めた構造材であり、環境負荷の低減や脱炭素社会の実現に向けた技術として注目されている。製造ラインを見学し、木造建築の新たな可能性に触れることができた。特に、木は成長すると二酸化炭素の吸収をやめ、燃やすと放出してしまうが、CLTとして有効利用することで炭素固定を継続できるという話が印象的であった。

この5日間の中で最も強く感じたのは、「建設現場でありながらワークライフバランスが整っている」という点である。建設業界には長時間労働のイメージがあったが、（実習先）では勤務時間や休日の管理が徹底されており、社員が安心して働ける環境づくりが進んでいた。特に、役員の方が男性社員に対して「積極的に育児休業を取ってほしい」と話されていたことが印象的であった。社員一人ひとりを大切にする企業姿勢に触れ、建設業の新しい形を感じた。

今回のインターンシップを通して、建設業界に対する見方が大きく変わった。以前は体力的に厳しい仕事という印象があったが、実際には高度な技術と協調性が求められる社会的に重要な仕事であると理解した。今後は大学で学ぶ専門知識をより深め、現場で求められる判断力やコミュニケーション能力を身につけていきたい。特に構造設計や施工管理の分野で活躍できるよう資格取得に挑戦し、将来は地域に根ざした技術者として社会に貢献したいと考えている。

# 現場での人の重要性

高等専門学校・土木建築工学科・4年

期間：令和7年8月25日～29日（5日間）

私は土木の分野に関する仕事に就きたいと考えており、その中でも施工管理の仕事について興味があったため施工管理では実際どのようなことを行っているのか学びたいと思い、インターンシップに参加させていただきました。5日間のインターンシップを通して、現場の様子を見たり、現場の方々から教えていただいたりして、施工管理の現場では人の作業や判断が非常に重要であることを学びました。

インターンシップに参加して、施工管理の仕事は作業員の安全確認や作業中の確認、品質、日程の管理など多種にわたることを教えていただきました。安全確認では朝礼の際に各会社の代表者が当日の日程や気を付けることを全員に発表するKY活動を必ず行っていました。朝礼の最後に「ご安全に」と全員で呼びかけることによって事故を絶対に起こさないように意識掛けており、私も気が引き締まりました。

朝礼の後はずぐに作業が始まり、作業員の作業手順で間違っていることがあるとしっかりと本人に伝えていました。また、作業中に問題が発生した際に周りの作業員と一緒に、どのように対応すればよいか話し合ったり、ほかになにか問題がないか意見を出し合ったりしていました。これらのことから、人の注意力や判断力が非常に重要であることがわかりました。

コンクリートを打設する際には型枠を下から上に向かってたたくことによってコンクリートと型枠の間にある気泡が抜け、型枠を外した際に穴ができず品質が良くなることを教えていただきました。このような重機ではできない人の手による作業が多く、品質を良くするためにも非常に重要であるとおっしゃっており、人の作業が品質に大きく影響していることを実感しました。（就業体験先）では重機の運用や測量の場面で最新のICTの技術を多く取り入れており、作業が非常に効率的になっていました。その中でも積極的に最新の技術を取り入れながら人にしかできない作業を丁寧に行っており、作業を効率的にするかつ、品質をより良くするために心掛けており非常に勉強になりました。また、実際に現場を見てきて、作業員とのコミュニケーションが非常に重要であることがわかりました。日ごろから会話をすることによって正しい作業方法を教えたり、作業員の体調が普段と異なることがいち早くわかったりして、事故を発生させないことにもつながることがわかりました。

5日目では会長から建設分野だけに限らず様々なことも勉強するようおっしゃられ、土木分野では社会と密接に関係しているため様々なことを勉強することが重要であると教えていただきました。私はこの言葉を励みに勉強を頑張りたいと思っております。また、（就業体験先）の皆様にはICTなどの最新の技術を積極的に取り入れることと、人にしかできない作業、作業での問題や安全に対する人による判断が非常に重要であることを教えていただきました。学校の勉強だけではわからないことを、今回のインターンシップを通して多く学ばせていただきました。本当にお世話になりました。この5日間大変貴重な体験をさせていただきありがとうございました。